

## 在宅医向け研修プログラム

時間	プログラム	担当者など
9:30	受付開始	
10:00	開会 主旨説明、挨拶	
10:15	① 重症児の病態と特別支援学校の状況	
11:15	② 小児在宅医療における連携と知っておくべき制度	
12:15	休憩 この後ランチオン	
12:30	③ ワクチン予防接種	
13:00	④ 小児の呼吸管理	
13:40	休憩	
13:55	⑤ 病院小児科医との連携	
14:45	⑥ 小児の水分、栄養管理	
15:25	休憩	
15:40	⑦ NICU での新生児医療	
16:10	⑧ 子どもの親との関わり	
17:00	実際の体験者の親のお話	患者さんご家族
17:15	アンケート記入	
17:25	挨拶、案内	
	終了	

## 医師部会研修（２）シラバス

【研修名】 在宅医のための小児在宅医療研修

【対象】 既に在宅医療を実践し、人工呼吸器などの医療デバイスのある患者さんの診療体験のある医師

### 【研修の目的（何のために）】

医師向け研修は、対象の医師によってその構成や内容は変わってくる。小児在宅医療を支援する人材育成という観点から考えると、実際に在宅医療に従事している小児科医はほとんどいない現状から、既に在宅医療を実践し、ALSなどの難病患者を担当し、在宅人工呼吸器療法や、気管切開を行っている患者の診療経験のある医師に小児在宅医療を実践していただくのは大きな力になる。そのための研修を模索した。

### 【到達目標（どこまで）】

1. 小児在宅医療の特徴を知る（成人との比較を通して理解する）
2. 重症児の病態を知る
3. 小児の在宅医療に関わる社会制度を理解する
4. 小児在宅医療における多職種連携を理解する
5. 重い障害や病気の子どもの持った親の気持ちを理解する

### 【プログラム構成】

No	プログラム名	目安時間 (分)	概要	形式
1	開会・主旨説明	15	研修の主旨説明、主催者挨拶	講義
2	重症児の病態と特別支援学校の状況	60	重症児の病態と教育	講義
3	小児在宅医療における連携と知っておくべき制度	30	障害福祉制度の活用	講義
4	ワクチン予防接種	30	予防接種の種類と接種法	講義
5	小児の呼吸管理	40	小児に特徴的な呼吸管理	講義
6	病院小児科医との連携	50	小児科医の考え方を知り、連携を深める	演習
7	小児の水分、栄養管理	40	小児特有の水分管理	講義
8	NICUでの新生児医療	30	現在NICUで行われている医療の紹介	講義
9	子どもの親との関わり 実際の体験者の親のお話	50	子どもの親の気持ちを知る 親の体験談を聞く	講義

プログラム名	重症児の病態と特別支援学校の状況	講師	医師
時間（分）	60分		
目的	重症児に特徴的な病態を理解する 特別支援学校における医療ケアの取り扱いについて知る		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重症児の可能性、豊かな内面を理解する</li> <li>・重症児の呼吸、嚥下などの病態を理解する</li> <li>・緊張とその対応について理解する</li> <li>・教育の中での医療ケアの現状を理解する</li> </ul>		
コンテンツ	<b>【講義】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重症心身障害児の定義と特徴</li> <li>・重症心身障害児の可能性</li> <li>・重症心身障害児の呼吸障害</li> <li>・重症心身障害児の嚥下障害</li> <li>・重症心身障害児の受けている教育、特別支援教育と医療ケアの関わり</li> </ul>	<b>【講義】</b>	
テキストページ	198 ページ～		
必要物品等	PC、プロジェクター		

プログラム名	小児在宅医療における連携と知っておくべき制度	講師	医師
時間（分）	30分		
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児在宅医療における訪問看護の役割を知る</li> <li>・障害福祉サービスについて理解する</li> <li>・障害福祉サービスの中でヘルパーの役割を知る</li> <li>・医療費補助制度や手当を理解する</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療デバイスがついて医療ケアが必要な子どもが受けられる障害福祉サービスについて理解する</li> <li>・訪問看護とヘルパーの活用法を理解する</li> </ul>		
コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児在宅医療における訪問看護の役割</li> <li>・障害福祉サービスについて</li> <li>・障害福祉サービスの中でヘルパーの役割</li> <li>・医療費補助制度や手当</li> </ul>	【講義】	
テキストページ	63 ページ～		
必要物品等	プロジェクター・PC・ポインター		

プログラム名	ワクチン予防接種	講師	医師
時間（分）	30分		
目的	現在の複雑な予防接種の種類と接種法を理解する		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予防接種の理解</li> </ul>		
コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワクチンの種類</li> <li>・ ワクチン各論</li> <li>・ ワクチンの接種間隔とスケジュール</li> <li>・ 接種手技</li> <li>・ アナフィラキシー治療手順</li> <li>・ 同時接種について</li> <li>・ 健康被害が起こったら</li> </ul>	【講義】	
テキストページ	101 ページ～		
必要物品等	パソコン、プロジェクター、スクリーン、ポインター、		

プログラム名	小児の呼吸管理	講師	医師
時間（分）	40分		
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児の在宅人工呼吸とリハビリテーションを理解する</li> <li>・NPPVを理解する</li> <li>・気管切開のトラブルを理解する</li> <li>・呼吸理学療法を理解する</li> </ul>		
到達目標	小児の在宅人工呼吸とリハビリテーションを理解する		
コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸サポートの方式</li> <li>・呼吸の生理</li> <li>・NPPVの注意点</li> <li>・人工呼吸器のアラームのチェック</li> <li>・気管切開の管理</li> <li>・排痰ケア</li> <li>・呼吸リハビリ</li> </ul>	【講義】	
テキストページ			
必要物品等	プロジェクター・PC・ポインター		

プログラム名	病院小児科医との連携	講師	医師
時間（分）	50分		
目的	成人の在宅医に小児科医の発想と考え方を理解してもらい、連携をスムーズにするための方法論を学んでもらう		
到達目標	実際の連携の場面で役に立つコミュニケーションのコツをつかんでもらう		
コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生後 6 か月の脳性まひの子どもの入院依頼の場面を想定して実際に考えてもらう</li> <li>・ 小児科医にわかってもらうためのプレゼンテーションのポイントを示す</li> </ul>	【講義】	
テキスト ページ			
必要物品等	プロジェクター・PC・ポインター		

プログラム名	小児の水分、栄養管理	講師	医師
時間（分）	50分		
目的	小児の水分管理、栄養管理を理解し、実際に対応できるようになる		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児特有の水分管理のポイント</li> <li>・小児の栄養管理のポイント</li> <li>・小児の経管栄養、胃瘻管理のポイント</li> </ul>		
コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児特有の水分管理のポイント</li> <li>・小児の栄養管理のポイント</li> <li>・小児の経管栄養、胃瘻管理のポイント</li> </ul>	<p>【講義】</p> <p>【演習（実習）】</p>	
テキストページ	213 ページ～		
必要物品等	プロジェクター・PC・ポインター		



プログラム名	NICU での新生児医療	講師	新生児科医
時間（分）	30 分		
目的	<p>在宅医療の対象となる子どもの 6 割は NICU の出身者である          その NICU で現在どのような医療が行われているのか、医療者であっても知る機会は少ない。その貴重な機会を提供する。</p>		
到達目標	現在の NICU 医療の現状を理解する		
コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NICU って何</li> <li>・ NICU はどんな施設か？</li> <li>・ NICU で行われている医療 低体温療法など</li> <li>・ NICU からの退院</li> <li>・ NICU 長期入院児の動向</li> <li>・ 脳性麻痺</li> <li>・ NICU を退院した子どもの障害</li> </ul>	【講義】	【演習（実習）】
テキスト ページ	281 ページ～		
必要物品等	PC・プロジェクター・ポインター		

プログラム名	子どもの親との関わり 実際の体験者の親のお話	講師	医師、在宅医療を受けている子どもの親
時間（分）	40分		
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害のある子をもつ親の気持ちを理解する</li> <li>・ 障害のある子の親とコミュニケーションができるようになる</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 親との接し方がわかる</li> <li>・ 親の苦しみがわかる</li> </ul>		
コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師のガイダンス</li> <li>・ コミュニケーションの重要性</li> <li>・ 寄り添う気持ちで</li> <li>・ 障害を持ち、在宅医療を受けている子どもの母親の気持ちをお聞きする</li> </ul>	【講義】	
テキストページ	37 ページ～		
必要物品等	PC・プロジェクター・ポインター		

## 看護部会報告

### 「重症・病弱児在宅支援技術教育プログラム作成の研究」

研究代表者 前田浩利  
分担研究者 奈良間美保、梶原厚子、福田裕子、西海真理  
研究協力者 井川夏実、木暮紀子、山崎雪、松岡真里

#### 研究要旨

医療依存度の高い小児の在宅支援在宅医療を支える上で訪問看護師の役割は大きい。しかし、訪問看護は介護保険利用者の増大と共に成長してきた事業であり、その地域ニーズに対応するために高齢化問題に対応すべく教育や普及活動がなされてきた。そのため医療保険法にのみ該当する小児や若年成人期の訪問看護師への情報発信や交流の機会は殆どない。小児の訪問看護の研修などの教育に関することは、これまでは重症児に対する訪問看護技術が中心であった。医療の進歩に伴い小児の在宅医療を必要とするのは重症児に限らず様々な状態像が想定されるようになった。そもそも小児在宅医療に必要な訪問看護師に必要な要素について十分な検討がなされていなかったと感じている。重度の重複障害や病弱小児、NICU 退院後の乳幼児に対応した研修などの教育を受ける機会は少なく、生まれてから入学、就労、家族の高齢化などのライフステージに合わせた医療的配慮についてもほとんど注目されてこなかった。

本研究では医療依存度の高い小児の在宅医療における訪問看護師の標準的支援技術を明確にし、その技術をもった看護師の育成のためのプログラム開発・実施・評価・今後の課題の検討を行った。

#### A. 研究目的

医療依存度の高い小児の在宅医療を支える上で訪問看護師の役割は大きい。しかし、訪問看護は介護保険法を基盤として存在する事業であるため、医療保険法にのみ該当する小児や若年成人期の訪問看護師への情報発信や交流の機会は殆どない。訪問看護の研修は、これまで重症児に対する訪問看護技術が中心で、重度の重複障害や病弱小児、NICU 退院後の乳幼児に対応した内容は少なく、生まれてから入学、就労、家族の高齢化などのライフステージに合わせた医療的配慮についてはほとんど注目されてこ

なかった。

本研究の目的は、医療依存度の高い小児の在宅医療における訪問看護師の標準的支援技術を明確にし、その育成プログラムを作成し評価することである。

#### B. 研修内容の検討をふまえた取り組み

東京都世田谷区、墨田区、千葉県松戸市新松戸の3地域の研修について、研修の基本方針との一貫性、内容の過不足やわかりやすさなどの検討を重ねた結果、小児の在宅医療における訪問看護師の標準的支援技術を育成する研修プログラムのコンテンツを生成した。時間配分や研修方法などさら

なる検討をしたが、どこでも誰もが開催できるという事を考えて、このコンテンツが妥当であるという結果となった。行政や病院への講師依頼の方法やその過程を通じた協働の在り方についても検討を行い、研修会が地域活性につながるような意味を持たせるためのナビゲートのガイドになるような手順書などの作成も必要ではないかとの意見もあった。埼玉医科大学総合医療センター小児科小児在宅医療支援グループにより、平成24年度25年度と2か年連続で同プログラムの研修会を開催し、前年度参加ステーションが研修会を高く評価し、他のステーションなどにも、研修参加を促したり、小児の訪問看護に関わる良い動機づけとなったという結果を得た。

開催までのナビゲートは、地域特性を理解することが重要であり、回を重ねることで出来上がっていく連携や、講師依頼先にはその都度変化が起きるため、標準化し手順作成するまでには至らなかった。

### C. 考察

今回、小児の在宅医療における訪問看護師の標準的支援技術を明確にし、その育成プログラムを作成し評価することに取り組んだ。その結果、研修前には家庭での子どものケアに不安を抱いていた看護師の多くが、標準的ケアを理解し、実施できるという感覚をもつに至り、研修会が一定の成果を生んだものと考えられる。健康問題の有無を問わず子どもを理解し基本的なケア技術を習得すること、家族の体験に心を寄せること、生涯にわたる子どもと家族の発達を描きながら1日、1週間ごとのケアを組み立てること、地域固有のネットワークとつな

がりをもち確実にケアに活かすことなどの重要な要素が見出された。このような訪問看護ステーションに勤務する看護師を対象とする地域単位の実践的研修会は極めて新しい取り組みである。行政や福祉関係職への講師依頼などの運用においてもネットワークづくりの一環として重要な意味をもつことを意識すること、継続的に参加可能な時期や頻度の検討も重要である。今後は看護師に生じた長期的変化の有無や地域の変化についてもさらなる検討が必要である。

## 看護部会研修シラバス

【研修名】 訪問看護研修会

【対象】 訪問看護師

### 【研修の目的（何のために）】

医療保険における在宅医療はプランナーが不在であるために、医療依存の高い子どもや若年成人に対して、訪問看護師が在宅ケア全体をマネジメントできる力を持つよう期待されている。本プログラムの目的は、①重症心身障害児や小児、若年成人に対する理解を深め、訪問看護師として関わる人材輩出をする。②対象児者が暮らす市区町村の方々を講師に招いて研修することで、その研修の場が、地域資源の交流の場所となり、連携を生み出す。③明日からの訪問看護に役立つ。この3点を目的にしています

### 【到達目標（どこまで）】

6. 小児の訪問看護に行ってみたくなる
7. 小児を取りまく社会資源を知ることが出来る
8. 小児の成長発達を意識した看護計画が立てられる
9. 関わることで地域が作られていくという実感とその中核にいるのだという自覚が待てる

### 【プログラム構成】

No	プログラム名	目安時間 (分)	概要	形式
1	オリエンテーション	45	研修の主旨説明、受講者自己紹介	講義
2	家族看護	75	家族看護の基礎	講義
3	家族看護グループワーク	90	家族看護について今までの看護体験で感じたことを語り合ってみよう	グループワーク
4	障害児施策	45	各市区町村のしおりなどをもとに、各種手続きや仕組みについての解説	講義
5	母子保健について	45	保健師の役割と活動	講義
6	相談支援専門員について	45	相談支援専門員の役割と仕組み	講義
7	小児看護Ⅰ 元気な子どもの生活①	150	成長発達・生理学的特徴・基本的生活習慣 アセスメントの視点・予防接種	講義

8	小児看護Ⅰ 元気な 子どもの生活②	60	成長発達・生理学的特徴・基本的生活習慣 アセスメントの視点・予防接種	講義
9	小児看護Ⅱ 子ども のスキントラブルと スキンケア	60	子どもの皮膚の特徴	講義
10	小児看護Ⅲ 子ども のフィジカルアセス メントと救命処置	90	年齢ごとのバイタルサインの正常値・呼吸 不全・循環不全・心不全兆候と看護	講義 演習
11	小児看護Ⅳ 呼吸す る・食べる・寝る・排 泄する・体温を維持す る事への問題と対応	120	睡眠リズム・体温・呼吸	講義
12	小児看護Ⅴ 呼吸す る・食べる・寝る・排 泄する・体温を維持す る事への問題	120	栄養方法 排泄方法	講義
13	退院調整会議	45	病院との連携の実際	講義
14	子どものリハビリの 実際	60	PT より訪問リハビリの基礎と実際	講義 演習
15	子どもの発達、感覚統 合、遊び	120	OT より、感覚統合を中心とした話	講義 演習
16	療育施設を知ろう	60	近隣の療育機関の実践を知る	講義
17	相談支援機能を持っ た訪問看護	90	訪問看護のミッション・医療保険における 訪問看護の報酬・相談支援機能を持った訪 問看護	講義
18	継続支援の実際	60	地域資源と結び付けていう事をイメージす る	講義
19	子どもケアの基本	120	発達を意識した訪問看護の実際	講義

プログラム名	家族看護（家族ケア）	講師	看護師
時間（分）	講義 75分 ワーク 90分		
目的	子ども・家族・社会の関係を描きながら、子どもと家族中心の視点から家族の特徴や体験を理解し、支援のあり方を考える。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども・家族と社会とのつながりの中で医療を位置づけることができる。</li> <li>・病や障がいをもつ子どもと家族の体験を考えることができる。</li> <li>・家族の発達の特徴とその支援を理解することができる。</li> <li>・チーム医療における子ども・家族中心のケアについて考えることができる。</li> </ul>		
コンテンツ	<b>【講義】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども・家族と社会、その中の医療</li> <li>・病や障がいをもつ子どもの家族の体験</li> <li>・家族の発達の特徴とその支援</li> <li>・チーム医療における子ども・家族中心のケアと看護の役割</li> </ul>	<b>【講義】【ワーク】</b>	
テキストページ	26 ページ～		
必要物品等	特になし		

プログラム名	障害児施策	講師	看護師または相談支援員
時間（分）	講義 45 分		
目的	障害児の利用できる施策を理解し、子ども・家族の状況にあわせた制度の活用の仕方について学ぶ。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害児の利用できる国の施策を理解する。</li> <li>・ 地元市町村の障害児施策を理解する。</li> <li>・ 子ども・家族の状況にあわせたサービスの組み立てをイメージできる。</li> <li>・ 制度利用の各種手続きについて理解する。</li> </ul>		
コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの発達と社会資源</li> <li>・ 障害福祉（児童福祉）関係サービス</li> <li>・ 在宅、通所、入所等のサービスのあらまし</li> <li>・ 制度を活用した暮らしのイメージ</li> <li>・ 各種手続きの流れ</li> </ul>	【講義】	
テキストページ	42 ページ～		
必要物品等	各市町村の障害児施策に関するしおり等		



プログラム名	母子保健について	講師	保健師
時間（分）	45分		
目的	子どもの暮らす地域の母子保健事業と保健師の活動を知り、研修会を通して地域の保健師と知り合いになることで、連携を生み出すきっかけとなることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子保健事業の概要がわかる。</li> <li>・保健師の役割がわかる。</li> <li>・保健師と連携するきっかけを作る。</li> </ul>		
コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師の役割</li> <li>・母子保健事業について</li> <li>・予防接種について</li> <li>・相談窓口について</li> </ul>	【講義】	
テキストページ	46ページ～		
必要物品等	なし		

プログラム名	相談支援専門員について (相談支援の実際)	講師	相談支援専門員
時間(分)	45分		
目的	重症心身障がい児といわれる子どもと家族の生活を支えるためには、日常のケアにあたり社会生活を支援する介護職や福祉職の役割が大きい。本プログラムの目的は、子どもの相談支援について学習し、参加者それぞれが自らの立場に置き換えて理解し、今後の居宅介護に活かせるようにすることである。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談支援の流れや業務がわかる。</li> <li>2. 相談支援専門員を中心とした多職種連携の方法がわかる。</li> <li>3. 障がい福祉サービス以外のサービスも必要であれば盛り込む。</li> <li>4. 多職種で多様なサービスを盛り込むために話し合う場を持つことで地域がつながっていく。</li> </ol>		
コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の活動紹介(写真や映像を含む)</li> <li>・多職種連携に関する解説</li> </ul>	【講義】	
テキストページ	52ページ～		
必要物品等	パソコン、プロジェクター、スクリーン、ポインター、マイク、スピーカー		

プログラム名	元気な子どもの生活	講師	看護師（小児看護専門看護師等）
時間（分）	150分・60分		
目的	正常な子どもの成長発達や生理学的な特徴から、子どものアセスメントの視点の理解を深める。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの権利を保障する法的根拠について説明することができる。</li> <li>・子どもの定型の成長発達を述べることができる（運動・言語認知・社会性）</li> <li>・子どもの基本的な生活習慣について説明することができる。</li> <li>・子どもの発達を促すための年齢に応じた遊びについて説明することができる。</li> <li>・子どもによくみられる健康問題とその対処について説明することができる。</li> </ul>		
コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの定義</li> <li>・子どもの権利を保障する法律／制度</li> <li>・成長発達（機能・形態）の評価</li> <li>・子どもの健康生活（基本的な生活習慣）</li> <li>・子どもの発達を促す遊び</li> <li>・子どもの健康問題と対処 （下痢嘔吐による脱水・発熱への対処、事故防止）</li> </ul>	【講義】	
テキスト ページ	76 ページ～		
必要物品等	プロジェクター・PC・ポインター パンフレット類（必要に応じて） 成長発達曲線		

プログラム名	こどものスキントラブルとスキンケア	講師	皮膚・排泄ケア認定看護師
時間（分）	60分		
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚の解剖生理とスキンケアの基礎を理解し、小児の皮膚の特徴と適したケアについて学び、明日から使えるスキンケアの知識・技術を習得することを目的とする</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚の解剖生理をスキンケアの基礎がわかる。</li> <li>・小児におこりやすい皮膚トラブルに応じたスキンケアがわかる。</li> <li>・明日からすぐに訪問先で実践できるケア方法を習得できる。</li> </ul>		
コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常な皮膚の構造と機能</li> <li>・こどもの皮膚の特徴</li> <li>・スキンケアの基本</li> <li>・皮膚に優しい洗浄方法</li> <li>・正常な生理機能を高め維持する保湿ケア</li> <li>・こどもに多い皮膚障害</li> <li>・人工肛門、胃ろう、気管切開口のケアの実際</li> <li>・皮膚・排泄認定看護師との連携</li> </ul>	【講義】	
テキストページ	118 ページ～		
必要物品等	なし		